らには近隣の県以外に東京、大阪からも来場がある。年齢層は、小学生の子供を連れた親子が多く、最近では修学旅行先としての利用もある。来場者の声は好意的なものを多くいただいている状況である。

●民生費

老人福祉センター管理運営費

問　老人福祉センター寿楽荘は入浴サービス等で大変多くの方が利用されている印象を受けるが、設備が老朽化してきている。今後の方向性について伺う。

答　高齢者が明るい生活を送るために大変貴重な施設だと考えている。

老朽化については認識していて、浴場の排水の状態改善に修繕等は行ったが、建て替えは多額の費用がかかる。利用者が最低限困らないという視点で、今後も対処できるものについては極力対応していきたい。

●衛生費

電気自動車充電器設置事業

問　生命の海科学館に普通充電器が設置されたと聞いているが、利用状況は。

答　24年度の実証実験において11月に5件、12月に4件、25年1月に1件、2月に4件、3月に18件の利用があった。3月に利用が多かったのは、観光交流センターのオープン時に充電器のPR活動を行ったことで増えたと考えている。十分に周知がされているとは言えないが、県内の観光施設の中では、比較的利用があったと思っている。

●農林水産業費

親子魚料理教室の開催

問　24年度の料理教室参加者の実績に親子対象12組とあるが、募集方法や献立、参加者の様子は、どのようか。

答　広報がまごおり等で募集を行い、多い場合は抽選となる。献立は、タコと枝豆の炊き込みご飯、アジの蒲焼き、タコとポテトのマヨネーズあえ、すまし汁だった。漁協女性部連絡協議会に下処理のしていないタコを用意してもらい、水洗いするところから体験してもらった。参加者に試食もしてもらい、大変喜んでもらえた。

●商工費

観光コンシェルジュの実績

問　観光コンシェルジュの人数とその存在意義は。

答　20年度の第1期生が332名で、その後、順調に増えて24年度までに750名になった。コンシェルジュは、16年12月に観光ビジョンが策定され、17年3月に観光交流立市宣言を行ったが、観光のおもてなしをということで始めた。その存在意義は、蒲郡の魅力を発信し、蒲郡を訪れる観光客を快く受け入れ、誇りを持って観光客をもてなすためである。試験を受けてもらい、コンシェルジュの認定をしている。

●土木費

市道竹谷前浜浜家1号線新設

問　鉄道高架事業で閉鎖となった三河塩津駅の東側にあった油井踏切の代替として住民から期待されている市道竹谷前浜浜家1号線の進捗状況はどのようか。

答　23年度から工事が進められ、24年度末までの進捗率は約65％である。25年度末には、供用開始したいと考えている。

警察との協議では旧国道23号との交差点は右折左折が可能だが、現在の計画では信号機は設置されない予定である。

●消防費

ブロック塀撤去事業補助金

問　東日本大震災によって津波についての危機感を持っている方は多いと思うが、身近にあるブロック塀の崩壊も危険と考える。地震による倒壊防止のためにブロック塀撤去の補助金申請が24年度は6件あったとのことだが、補助金の周知はどのようにしているのか。

答　毎年1回広報がまごおりの防災特集に掲載をしている。また、年間50回程度の防災の出前講座を行っており、そちらでも周知に努めている。

●教育費

清田の大くすの保全

問　24年度に清田の大くすの保全処置をしたとのことだが、現状は。

答　10年度にある程度の改善を行った後に、21年度に樹勢診断を行った。樹木医からは、樹勢は回復してい

■ 9月定例会の日程

4日	本会議 〔会期の決定、諸般の報告、議案説明、一般質問など〕 決算審査特別委員会
5日	本会議〔一般質問〕
6日	本会議〔一般質問〕
9日	総務委員会
10日	経済委員会
11日	文教委員会
13日	決算審査特別委員会
17日	決算審査特別委員会 議会運営委員会
18日	決算審査特別委員会
19日	決算審査特別委員会
25日	本会議 〔委員長報告、質疑、討論、採決など〕